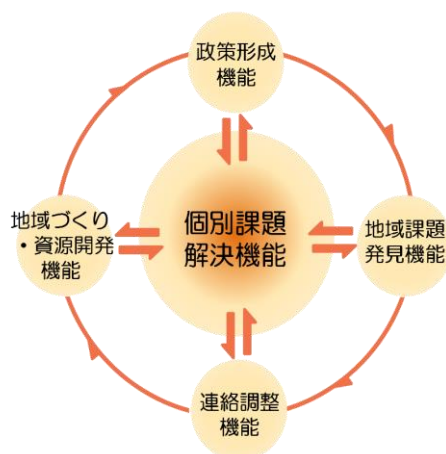


令和元年度 函館市地域ケア会議 全体会議

民生委員とケアマネジャーのための勉強会

つながる “支援の輪”

～ 地域包括ケアのための“連携”のあり方 ～



地域ケア会議の5つの機能

「地域包括支援センター運営マニュアル」 長寿社会開発センター

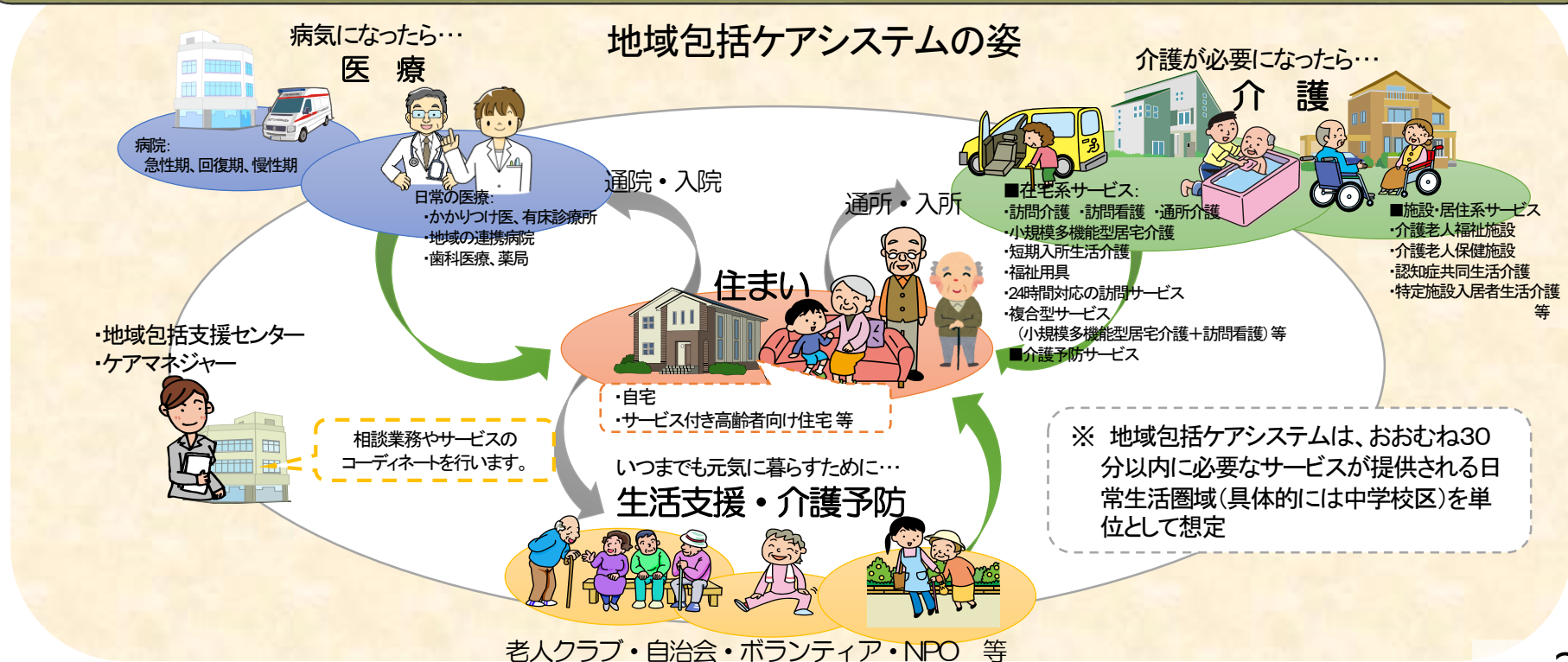
■ 日 程 : 令和元年7月20日(土) 13:10~13:30

■ 会 場 : フォーポイントバイシェラトン函館

中 澤 伸 社会福祉士
社会福祉法人川崎聖風福祉会 理事・事業推進部長

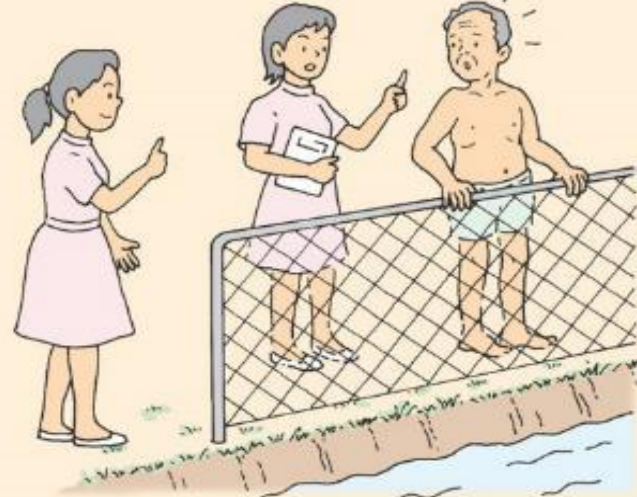
地域包括ケアシステムの構築について

- 団塊の世代が75歳以上となる2025年を目途に、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、**医療・介護・予防・住まい・生活支援が包括的に確保される体制(地域包括ケアシステム)の構築を実現。**
- 今後、認知症高齢者の増加が見込まれることから、認知症高齢者の地域での生活を支えるためにも、地域包括ケアシステムの構築が重要。
- 人口が横ばいで75歳以上人口が急増する大都市部、75歳以上人口の増加は緩やかだが人口は減少する町村部等、**高齢化の進展状況には大きな地域差。**
- 地域包括ケアシステムは、**保険者である市町村や都道府県が、地域の自主性や主体性に基づき、地域の特性に応じて作り上げていくことが必要。**



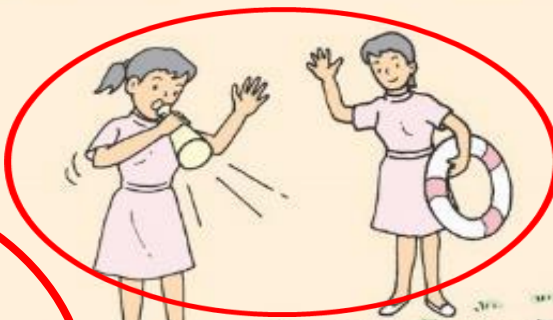


医学モデル

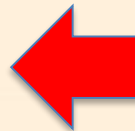


公衆衛生モデル

互助



共助・公助



危ない状況を見つけたら連絡するよ。



セルフマネジメントモデル

自助



連携強化に取り組む理由

地域包括ケアを推進させ、利用者の暮らしへの悪影響を防止する！

支援者と利用者のトラブル
支援者間のトラブル
支援方針がバラバラ
不必要な支援

不適切なサービス
利用者のストレス
従事者のストレス
悪徳事業者の侵入 等々

利用者と家族の安心・安全な暮らしへの悪影響

STOP!

- 信頼関係づくり（個人情報保護・守秘義務への不安を減らす）
- 「期待」と「実際に果たせる役割」にはズレがあることを意識する
- コミュニケーション（説明、確認）

市民・専門職・行政の連携を深めるために

- ① 連携は、**地域住民の暮らしのため**に行うものだが、お互いの**業務をスムーズに**するものでもある
- ② 連携は、双方がメリットを感じられることが必要
(win-win)
- ③ 連携の基本は個人と個人とのつながり。しかし、ゼロにならないようルールや仕組みを作っておくことが必要
- ④ 連携関係の構築方法は **“地域によって異なる”**
- ⑤ **相手を知る、地域を知る**、と地域にあった連携の形が見えてくる（連携する必要がある相手、連携方法など）

市民・専門職・行政の連携を深めるために

- ⑥ 連携関係は生もの。「**継続性**」が必要
- ⑦ 連携を深めるには「**共通言語やルール**」が必要
- ⑧ 連携関係づくりに近道はない。地道に顔の見える関係づくりを行う中で、実際に「**役立つ**」という実感を持ってもらわなければ構築も維持もできない
- ⑦ 連携相手の主体性とペースを尊重する。「**やらされ感**」
は禁物
- ⑧ 連携を維持するには、関係者の「**継続的な問題意識**」、
「**安心感**」、「**効果実感**」が不可欠